

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(中学校用)

都道府県名	鹿児島県
-------	------

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	東市来町立 上市来中学校					
学 年	1年	2年	3年	特殊学級	計	教員数
学級数	1	1	1	0	3	10
生徒数	19	22	17	0	58	

研究の概要

1 研究主題

「確かな学力」を身に付け、主体的に学ぶ生徒を育む指導法の工夫  
～数学科の指導を通して～

2 研究内容与方法

(1) 実施学年・教科

\* 実施学年・教科  
1年生～3年生 数 学

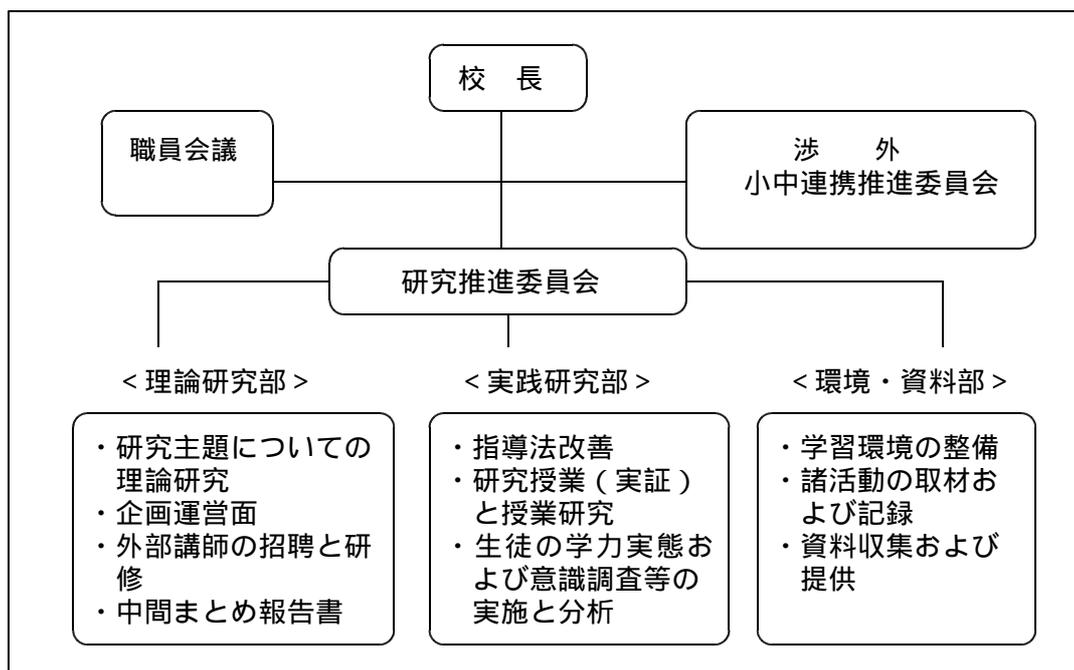
\* 数学を選択した理由  
本校の学力の実態を教研式標準学力検査(CRT)等で見ると、他教科に比べて数学における低さが課題である。また、鹿児島県公立高等学校入学者選抜学力検査の結果では、目安点未満の人数が多い教科に数学が上げられることから、小学校でのつまずきが中学校の学習にも影響していることが考えられる教科である。本校の生徒はすべて上市来小学校から進学してくることを考えると、小・中連携の視点で指導方法を研究することもできる。以上の理由で、数学の研究をすることにした。

(2) 年次ごとの計画

平成15年度	<p>テーマ 「確かな学力」を身に付け、主体的に学ぶ生徒を育む指導法の工夫 ～数学科の指導を通して～</p> <p>研究の見通し(仮説)</p> <p>仮説1 個に応じた指導により、基礎・基本の確実な定着が図れれば、生徒が数学に興味・関心を持ち、生徒が主体的に学ぶ態度が育成できるのではないだろうか。</p> <p>仮説2 生徒にとって身近な教材を用いたり、授業の中で効果的な操作活動を行ったりすれば、生徒が数学に興味・関心を持ち、生徒が主体的に学ぶ態度が育成できるのではないだろうか。</p> <p>研究の内容・方法</p> <p>(1)校内研究体制及び小・中連携体制の確立 (2)学力実態調査及び分析 (3)テーマ及び仮説の設定 (4)仮説の実証授業の推進及び指導法の工夫・改善</p>
--------	---

平成 16 度	<p>テーマ 「確かな学力」を身に付け、主体的に学ぶ生徒を育む指導法の工夫 ～ 数学科の指導を通して～</p> <p>研究の見通し 平成15年度に同じ</p> <p>研究の内容・方法 (1) 仮説の修正と実証授業の推進及び指導法の工夫・改善 (2) 研究の評価及び他教科・他校への波及 (3) P T Aとの連携による家庭における学習習慣の確立 (4) 研究の成果のまとめ</p>
---------------	--

### (3) 研究推進体制



### 平成15年度の研究の成果及び今後の課題

#### 1 研究の成果

<p>諸研究授業・研修会の実施による充実した研修ができた。</p> <p>(1) 実証授業の実施 (7/9 1年生・2年生 9/29 2年生 11/18 2年生)</p> <p>(2) 小・中交流授業の実施</p> <p>(3) 小・中合同実態調査の実施 ア 基礎学力(計算力)の実態調査 イ 生徒の意識調査・家庭学習状況調査 ウ 保護者の意識調査</p> <p>(4) 小・中連携情報交換会の実施(7/31)</p> <p>(5) 校内研修の実施(8/1)</p> <p>生徒の変容 下はH15年4月とH16年1月に同じ問題を2年生を対象に行った結果である。全内容とも4月段階を上回った。特に2年生が苦手としていた比例、反比例、座標の内容では、大幅な向上が見られた。しかし、全内容ともまだ定着しきれていない部分も多いので、今後も継続して指導していきたい。</p>
--

出題内容	得点率 (%)	
	H15/4	H16/1
正の数・負の数	50	59
文字を使った式とその計算	61	68
1次方程式	49	57
比例・反比例，座標	32	44

## 2 今後の課題

- ・ テーマや仮説の修正
- ・ 指導形態の計画やねらいの整理
- ・ 1単位時間の授業の流れの確立
- ・ 指導と評価の一体化
- ・ ワークシートの活用と見直し
- ・ 個人カルテの作成・活用
- ・ 個の変容の明確化（定着度調査）
- ・ 日常生活における数学の体験や歴史についての生徒への興味づけ
- ・ 数学掲示板の活用
- ・ P T Aとの連携による基本的学習習慣の確立
- ・ 家庭における数学科の学習のしかたの確立及び家庭学習課題の開発
- \* 上市来小学校との連携（9年間を見通した計画，指導方法の相互取入れ，小中の段差の解消等）

## 学力把握のための学校としての取組

標準学力検査（C R T）目的：絶対評価法に基づいた客観的なデータが得られ，全国との比較もでき，日常的な指導に生かすことができる。

内容：国・社・数・理・（2，3年生のみ英）  
1年間の指導内容

時期：本校では新年度1学期初めに実施。

定期テスト 目的：教師が指導事項の定着を見る。  
内容：既習範囲。特に新しく学習した内容。  
時期：5月・7月・10月・12月・2月

## フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- 1 校内における成果の普及
  - (1) フロンティア通信による研究の推進状況報告  
研究の推進状況を全職員に知らせるために不定期ではあるが必要に応じ発行している。
  - (2) 実証授業の提供や授業研究  
授業前，全職員に指導案を配付する。
  - (3) 授業研究まとめの配付  
授業研究のまとめを全職員に配付し，数学科以外の教科でも成果が生かされるように努めている。
  - (4) 校内研修における成果の普及  
校内研修で，基礎基本の定着を図り，具対策を推進している。
- 2 P T Aにおける啓発活動  
フロンティアスクールのねらいを説明しながら，基本的な学習習慣の定着を中心にP T Aの役割についての提言を行いながら協力を依頼している。

- 3 学校だより『しげひら』による情報提供  
月1回発行の学校だよりにより，学校での学力向上についての理解を保護者のみならず校区民に周知するよう努めている。
- 4 学校評議員会での話題  
学期1回開催の学校評議員会において，学校としての学力向上策について説明し意見を求めている。学校評議員の広い視野からの学校教育に対する意見や提言を学校でのフロンティア推進に生かすよう努力している。
- 5 町小中連携数学研究会での実践  
11月11日本校に於いて開催し，数学の研究授業を行った。その後の授業研究の中でこれまでのフロンティアスクールとしての取り組みを発表した。参加した町内の教師から，特に学力実態把握に小学校と連携して取り組んだ実践に関心が寄せられた。
- 6 町教育研究大会での発表  
8月27日町内の教職員全員と多くの保護者を集めて開催されたが，その中で本校の学力向上対策について発表した。  
(1) 数学を中心とした学力の実態と高校入試における基礎的問題の得点状況について  
(2) 選択数学や必修数学での本校の取り組みの実際について  
(3) 家庭学習を授業に生かす取り組みについて
- 7 町学力向上推進協議会での発表  
7月16日開催された。その中で，フロンティアスクールとしての取組状況を発表した。特にPTA部会員や教員部会員から，趣旨などについての質問もあり，本校としての研修推進の基本姿勢を示すことができた。町あげての学力向上へと発展させたい。また，本校PTAとしての取組みを具体的に推進していかなければならない。
- 8 町教頭・教務主任研修会での発表  
11月28日行われたが，本校でのフロンティアスクールの取組みを発表した。その中で，次の3点について問題提起した。  
(1) 生徒の意欲を高め，自ら取り組む学習指導についての具体例提示  
(2) 基礎基本の定着を図る評価と補充策についての提言  
(3) 小学校との相互授業参観等の連携の重要性と必要性について
- 9 HPによる研究状況，成果の普及  
学校のHPの中で，紹介のページとして今後充実させていきたい。

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- |                      |  |                                       |  |                                |
|----------------------|--|---------------------------------------|--|--------------------------------|
| 【新規校・継続校】            | <input checked="" type="checkbox"/> 15年度からの新規校 | <input type="checkbox"/> 14年度からの継続校   |  |                                |
| 【学校規模】               | <input checked="" type="checkbox"/> 3学級以下      | <input type="checkbox"/> 4～6学級        |  |                                |
|                      | <input type="checkbox"/> 7～9学級                 | <input type="checkbox"/> 10～12学級      |  |                                |
|                      | <input type="checkbox"/> 13～15学級               | <input type="checkbox"/> 16学級以上       |  |                                |
| 【指導体制】               | <input type="checkbox"/> 少人数指導                 | <input type="checkbox"/> T・Tによる指導     |  |                                |
|                      | <input checked="" type="checkbox"/> その他        |                                       |  |                                |
| 【研究教科】               | <input type="checkbox"/> 国語                    | <input type="checkbox"/> 社会           | <input checked="" type="checkbox"/> 数学 | <input type="checkbox"/> 理科    |
|                      | <input type="checkbox"/> 外国語                   | <input type="checkbox"/> 音楽           | <input type="checkbox"/> 美術            | <input type="checkbox"/> 技術・家庭 |
|                      | <input type="checkbox"/> 保健体育                  | <input type="checkbox"/> その他          |  |                                |
|                      |  |                                       |  |                                |
| 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 | <input type="checkbox"/> 有                     | <input checked="" type="checkbox"/> 無 |  |                                |